未来の書物への夢想

または、もう一つのハイパーテキスト論

2015年9月5日

於：Code for Lib

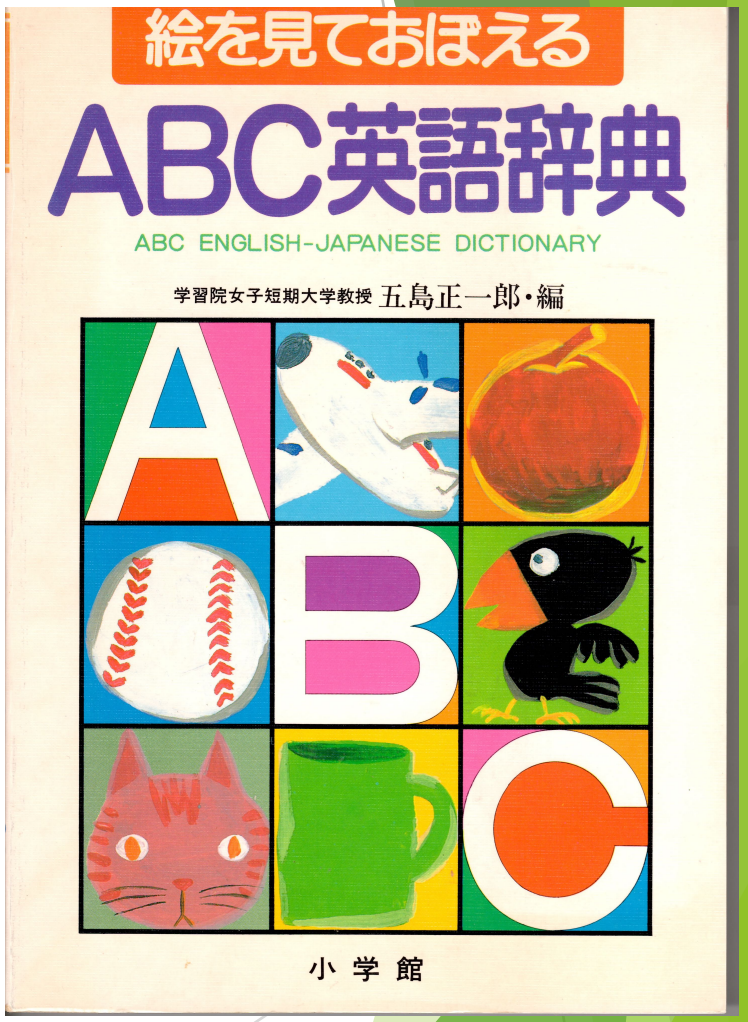
小林龍生

伝説の名編集者：中野幹隆

「現代思想」創刊編集長
「エピステーメー」創刊編集長
哲学書棒社主
2007年1月7日没

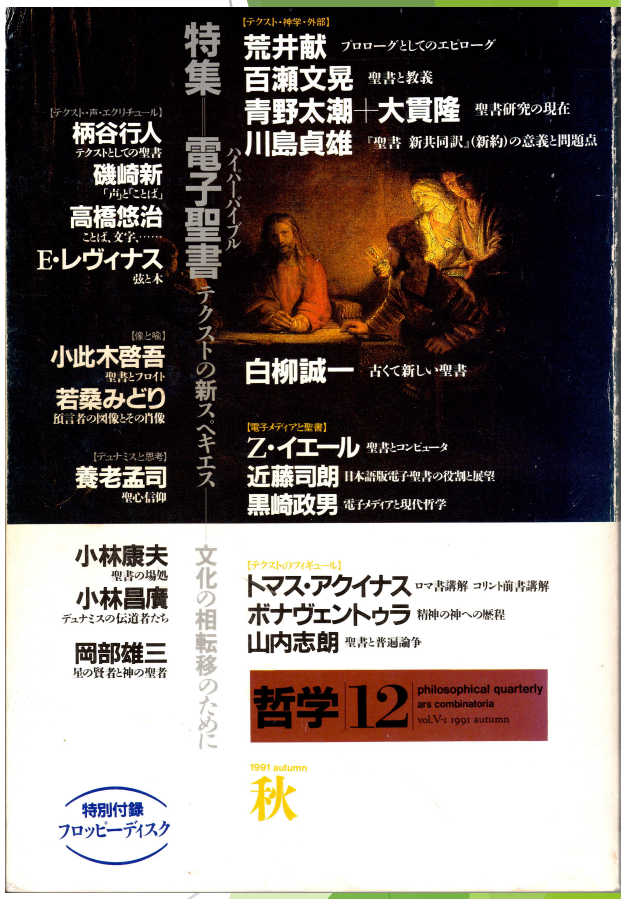
出会い

- 1975年「エピステーメー」創刊準備号
- 1976年、小学館入社、
  「小学六年生」編集部に配属
- 1985年、『ABC英語辞典』発行



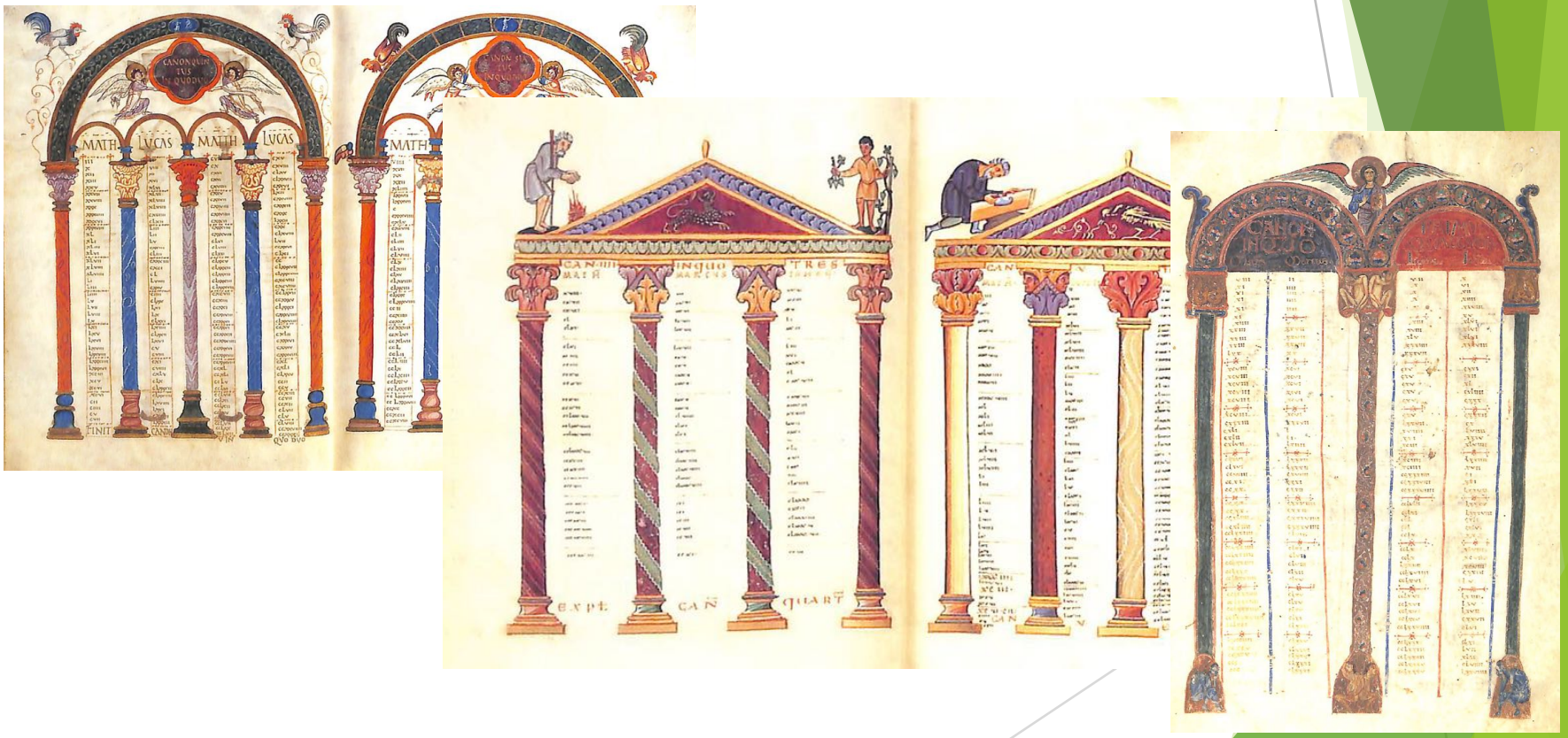
ハイパーバイブル

- 1991年「季刊哲学12号『電子聖書』」
- 新共同訳聖書のマタイ、マルコ、ルカ各福音書をハイパーテキスト化

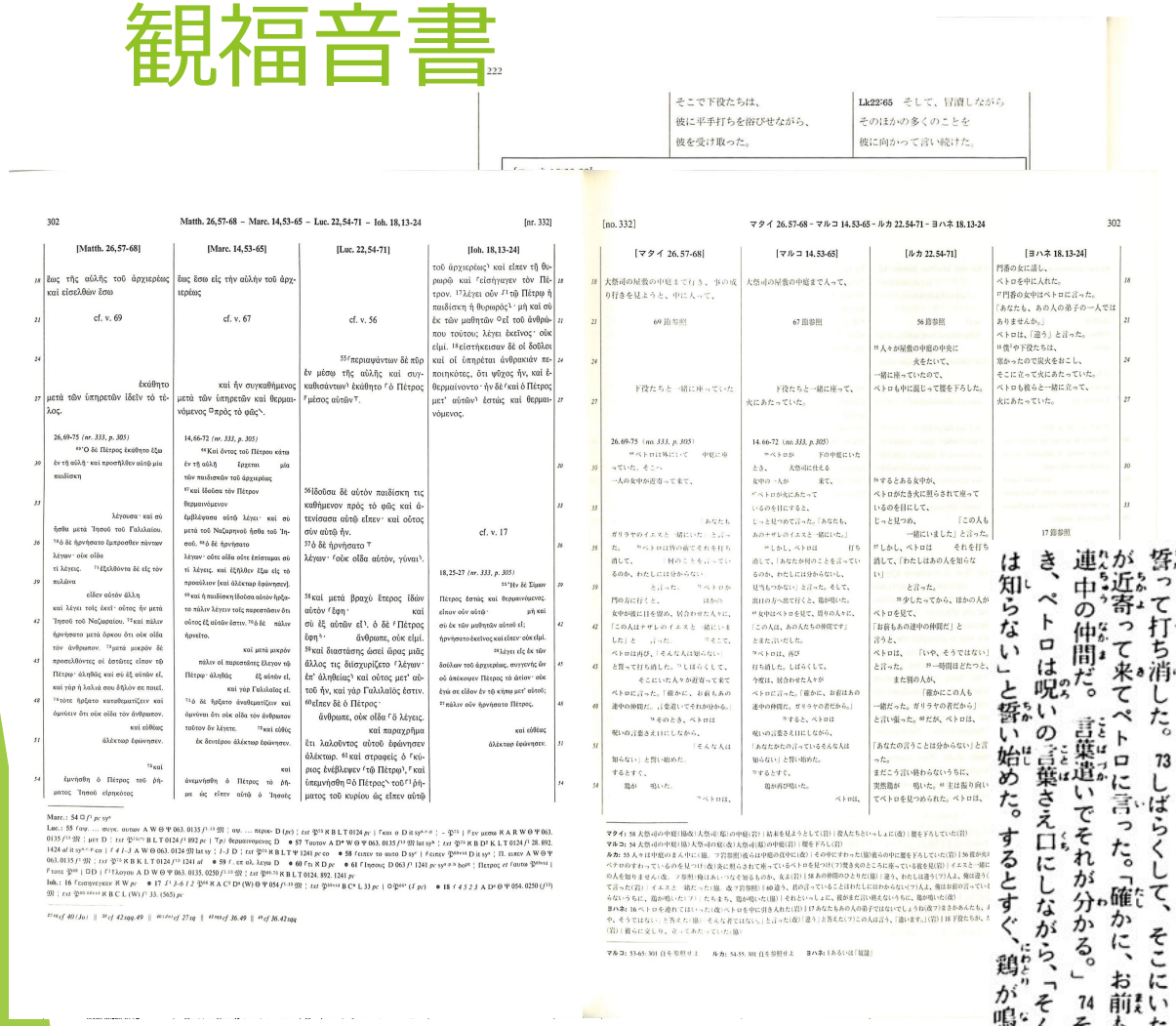


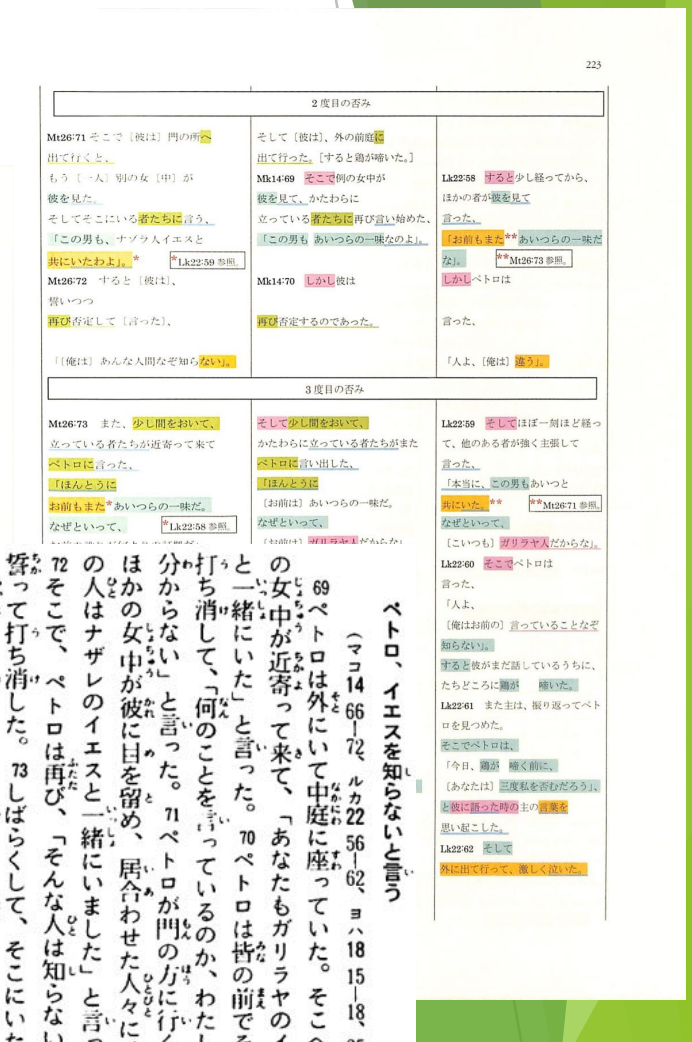
共観福音書とは：

- マルコ、マタイ、ルカ
- マタイとルカは、想定する読者層に合わせて、マルコを改変引用



ハイパーテキストとしての共観福音書





ペトロ、イエスを知らないと言う

（マコ 14 66－72、ルカ 22 56－62、ヨハ 18 15－18、25－27）

69 ペトロは外にいて中庭に座っていた。そこへ一人の女中が近寄って来て、「あなたもガリラヤのイエスと一緒にいた」と言った。70 ペトロは皆の前でそれを打ち消して、「何のことを言っているのか、わたしには分からない」と言った。71 ペトロが門の方に行くと、ほかの女中が彼に目を留め、居合わせた人々に、「この人はナザレのイエスと一緒にいました」と言った。72 そこで、ペトロは再び、「そんな人は知らない」と誓って打ち消した。73 しばらくして、そこにいた人々が近寄って来てペトロに言った。「確かに、お前もあの連中の仲間だ。言葉遣いでそれが分かる。」74 そのとき、ペトロは呪いの言葉さえ口にしながら、「そんな人は知らない」と誓い始めた。するとすぐ、鶏が鳴いた。

Paralles Narratology
平行物語論へ

- 電子聖書のHTMLへの移植

マタイによる福音書	マルコによる福音書	ルカによる福音書
 マルコによる福音書 14 章 66 節～72 節 ルカによる福音書 22 章 56 節～62 節 26:69 ペトロは外にいて中庭に座っていた。そこへ一人の女中が近寄って来て、「あなたもガリラヤのイエスと一緒にいた」と言った。 26:70 ペトロは皆の前でそれを打ち消して、「何のことを言っているのか、わたしには分からない」と言った。 26:71 ペトロが門の方に行くと、ほかの女中が彼に目を留め、居合わせた人々に、「この人はナザレのイエスと一緒にいました」と言った。 26:72 そこで、ペトロは再び、「そんな人は知らない」と誓って打ち消した。 	 マタイによる福音書 26 章 69 節～75 節 ルカによる福音書 22 章 56 節～62 節 <a name="14:66">14:66<a/> ペトロが下の中庭にいたとき、大祭司に仕える女中の一人が来て、 <a name="14:67">14:67<a/> ペトロが火にあたっているのを目にすると、じっと見つめて言った。「あなたも、あのナザレのイエスと一緒にいた。」 <a name="14:68">14:68<a/> しかし、ペトロは打ち消して、「あなたが何のことを言っているのか、わたしには分からないし、見当もつかない」と言った。そして、出口の方へ出て行くと、鶏が鳴いた。 <a name="14:69">14:69<a/> 女中はペトロを見て、周りの人々に、「この人は、あの人たちの仲間です」とまた言いだした。 	 マルコによる福音書 14 章 66 節～72 節 マタイによる福音書 26 章 69 節～75 節 22:56 するとある女中が、ペトロがたき火に照らされて座っているのを目にして、じっと見つめ、「この人も一緒にいました」と言った。 22:57 しかし、ペトロはそれを打ち消して、「わたしはあの人を知らない」と言った。 22:58 少したってから、ほかの人がペトロを見て、「お前もあの連中の仲間だ」と言うと、ペトロは、「いや、そうではない」と言った。 22:59 一時間ほどたつと、また別の人が、「確かにこの人も一緒だった。ガリラヤの者だから」と言い張った。

そして話は『藪の中』へ

- 平行物語としての『藪の中』（芥川龍之介）

多襄丸	女	死霊
男の命は取らずとも、――そうです。わたしはその上にも、男を殺すつもりはなかったのです。所が泣き伏した女を後（あと）に、藪の外へ逃げようとすると、女は突然わたしの腕へ、気違いのように縋（すが）りつきました。しかも切れ切れに叫ぶのを聞けば、あなたが死ぬか夫が死ぬか、どちらか一人死んでくれ、二人の男に恥（はじ）を見せるのは、死ぬよりもつらいと云うのです。いや、その内どちらにしろ、生き残った男につれ添いたい、――そうも喘（あえ）ぎ喘ぎ云うのです。わたしはその時猛然と、男を殺したい気になりました。（陰鬱なる興奮） こんな事を申し上げると、きっとわたしはあなた方より残酷（ざんこく）な人間に見えるでしょう。しかしそれはあなた方が、あの女の顔を見ないからです。	その紺（こん）の水干（すいかん）を着た男は、わたしを手ごめにしてしまうと、縛られた夫を眺めながら、嘲（あざけ）るように笑いました。夫はどんなに無念だったでしょう。が、いくら身悶（みもだ）えをしても、体中（からだじゅう）にかかった縄目（なわめ）は、一層ひしひしと食い入るだけです。わたしは思わず夫の側へ、転（ころ）ぶように走り寄りました。いえ、走り寄ろうとしたのです。しかし男は咄嗟（とっさ）の間（あいだ）に、わたしをそこへ蹴倒しました。ちょうどその途端（とたん）です。	盗人（ぬすびと）は妻を手ごめにすると、そこへ腰を下したまま、いろいろ妻を慰め出した。おれは勿論口は利（き）けない。体も杉の根に縛（しば）られている。
殊にその一瞬間の、燃えるような瞳（ひとみ）を見ないからです。わたしは女と眼を合せた時、たとい神鳴（かみなり）に打ち殺されても、この女を妻にしたいと思いました。	わたしは夫の眼の中に、何とも云いようのない輝きが、宿っているのを覚（さと）りました。何とも云いようのない、――わたしはあの眼を思い出すと、今でも身震（みぶる）いが出ずにはいられません。口さえ一言（いちごん）も利（き）けない夫は、その刹那（せつな）の眼の中に、一切の心を伝えたのです。しかしそこに閃（ひらめ）いていたのは、怒りでもなければ悲しみでもない、――ただわたしを蔑（さげす）んだ、冷たい光だったではありませんか？	が、おれはその間（あいだ）に、何度も妻へ目くばせをした。この男の云う事を真（ま）に受けるな、何を云っても嘘と思え、――おれはそんな意味を伝えたいと思った。しかし妻は悄然（しょうぜん）と笹の落葉に坐ったなり、じっと膝へ目をやっている。

JLreqとEPUB3

- Requirements for Japanese Text Layout
  - A working group note by Japanese Layout Task Force of W3C
  - http://www.w3.org/TR/jlreq/ja/
- EPUB3 by IDPF
  - Reffering HTML and CSS by W3C
  - http://idpf.org/epub/30

EPUBの背骨
spine情報

- EPUBなんて、HTMLとCSSをzipで固めただけ（村田真）
- では、EPUBとWebの違いは？→spine情報
- 物語としての製本＝線形化
  - ぼくには、「コンピュータは本のために何ができたか？」という肯定的な（したがって否定的な含意も持つ）問いかけに答えることは出来ない。そこで問いかけを「コンピュータは本に何をしたか？」と置き換えた上で。
  - 　コンピュータが「本」に与えたさまざまな影響について突き詰めていくと、結局は、「コンピュータは『本』という概念そのものの変質もしくは解体を推し進める機能を果たした」というのがぼくなりの結論。もちろん、「本」はコンピュータが出現しなくても変質もしくは解体の道を歩んだかも知れないし、コンピュータの出現がなければ「本」はまだまだ旧来の姿を保っていたかも知れないが。
  - では、変質もしくは解体の道を歩みつつある「本」を「本」たらしめる最後のよりどころは何かというと、それは、製本（bindingもしくはreliure）というきわめて物理的な手作業に係わるものではないか。
  - 「本とコンピュータ」2004年秋号

平行物語論から共観年代記へ

- 『EPUB戦記』（仮題）の執筆環境
- だれにでも、三冊の本が書ける
- 歴史としての自分史
- 開かれた歴史へ
  - https://episode-writer.appspot.com/
  - http://www.ebook2forum.com/chronicle/